

山|大|医|学|部 病|院|だ|よ|り

Yamaguchi University
Faculty of Medicine and Health Sciences

Yamaguchi University Hospital

News



総合研究棟A「医修館」竣工

3
2019

VOL.242

「医修館」竣工

いよいよ4月から使用開始



総合研究棟A 医修館(いしゅうかん)

3月7日(木)、医学部総合研究棟A(医修館)の竣工記念式典を行いました。式典には来賓として、丹沢文部科学戦略官、中山口県副知事(山口県知事代理)、柳居山口県議会議長をはじめ、学内外関係者等合わせて約80人が参加し完成を祝いました。

医修館は、地上5階建てで約200名収容の大講義室や実習室などの教育施設のほか、産学公連携オープンラボや地域連携施設が集約されます。医学部では約50年使用していた講義室、実習室のリニューアルとなり、4月から使用を開始します。

式では、古賀理事の式辞に続き、谷澤医学部長が「教育、研究の場として、地域で、日本で、そして世界で活躍する医療人を育成し、高い研究成果を産み、発信すべく、教職員、学生が一体となって取り組んでいきます」と挨拶しました。

続いてこのたびの竣工に伴い総合研究棟がより親しみを持てる施設となるよう愛称を募集し、選考された受賞者の表彰が行われました。

最後に来賓および学内代表者によりテープカットが行われ、施設見学会が行われました。

●表紙写真/左から、谷澤医学部長、柳居県議会議長、丹沢文部科学戦略官、古賀理事、弘中副知事、福本霜仁会会長、杉野病院長

ロゴマーク



総合研究棟B 医明館(いめいかん)

2つの総合研究棟の有機的連携

既設の総合研究棟B(医明館)と連携することにより、一体的な利用が可能となります。医学科と保健学科の学生がより活発に交流できる環境となります。



表彰式

愛称募集 受賞作品表彰式

総合研究棟Aは、最優秀賞に保健学科湯尻教授の「医修館」、優秀賞に保健学科3年伊藤さんの「真悠館」、総合研究棟Bは、最優秀賞に医学科2年安日さんの「医明館」、優秀賞に医学科2年友滝さんの「医仁館」が選ばれ賞状が贈られました。

ネーミングの由来

医修館は、「医学・医療を修練する場」、医明館は、「研究棟で行われている医学研究が、世の中を照らす一寸の光となるように」との意味を込めて名付けられました。

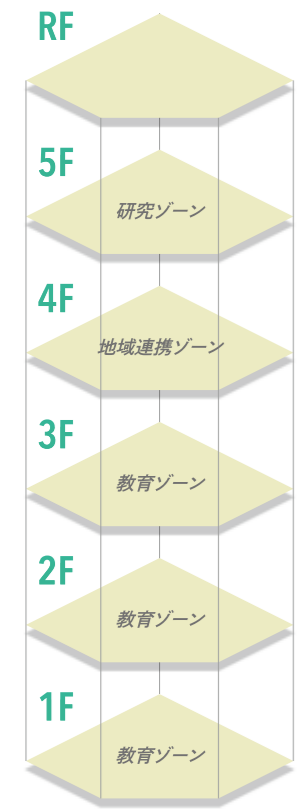


竣工記念式典で挨拶をする谷澤医学部長



最先端医療のイノベーション創出をめざして

FLOOR GUIDE



5F●産学公連携による最先端研究拠点
産学公連携の促進を図るため、企業や公共団体とのがん免疫療法の革新的な研究開発を推進するオープンラボを充実しました。

4F●地域社会に貢献出来る国際水準の高度医療人を育成
学術的向上心や国際的視野を持った医師・医学者(アカデミックドクター)の育成を推進するグローバル支援教育実験実習室(SMAC)や地域医療支援実習のチュートリアル室などグローバルな人材育成の拠点となります。SMACは学生が気軽に立ち寄れるサロンの雰囲気イメージしています。学生同士の情報シェアや海外からの訪問者との対話、学術情報交換等の交流活動のためのスペースです。

3F●多分野を集約した多様な実習環境を実現
生化学実習、生理学実習、薬理学実習、法医学実習等の様々な実習目的に対応した実習室で実践的な実習を行い、基礎医学の知識のみならず技術・技能を学習します。

2F●多様化する教育形態に対応
第2講義室では、ICTを活用した講義・演習、キャンパス間または学外機関との双方向通信による遠隔講義の実施や、WEBを利用した講義を可能としています。

1F●大規模授業や市民公開講座等多用途に活用できる教育環境
第1講義室には200名以上収容可能。基礎医学系科目や展開医学系科目の授業だけでなく、医学科と保健学科の合同授業や2学年合同授業等も可能です。ICTを活用した講義にも対応しています。

新総合研究棟の概要については、山口大学医学部ホームページをご覧ください。
<http://www.med.yamaguchi-u.ac.jp/public/special.html>

退任のごあいさつ

平成30年度定年退職者の皆さま



山口大学大学院医学系研究科
薬理学講座 教授

乾 誠

この度、平成31年3月末日をもちまして山口大学を退任することになりました。

私は、昭和54年に大阪大学医学部を卒業後、大阪大学第一内科の循環器グループに入り、米国ヴァンダービルト大学での5年間の留学を含めて約10年間を過ごしました。その後、基礎医学に専念するため大阪大学医学部附属バイオメディカル教育研究センターへ移り、平成8年10月に伴隆志教授の後任として薬理学講座教授を拝命し、山口大学に着任いたしました。山口大学医学部で22年余お世話になりました。山口大学では、2000人以上の医学部卒業生が巣立つてゆくのを見届けたことになりました。この間、薬理学の講義や実習を通して学生と接してきました。また、自己開発コースという授業科目では、毎年1〜2名の学生が薬理学教室を選択してくれ、約半年間を教室員と共に過ごしました。私の研究室に来てくれた学生は皆

真面目で、朝から晩まで一緒に実験したのを懐かしく思い出します。

最初の頃に教えた学生はもう40歳をこえる年齢となり、病院の中でも中堅として活躍しています。そういう姿を見ると頼もしく思うとともに、この様な仕事を続けることができても本当に良かったと思います。

私が山口大学で過ごした22年の間に医学部の周りの道路など周囲の環境も大きく変わりました。大学自体も大学院化、法人化など幾つもの改革がありました。その時々々の学長、医学部長のもとで幾つかの改革にも関わらせていただきました。私自身は基礎医学に身を置いていたので、その影響は比較的少なかったかもしれません。今後、さらに法人複数大学制など新たな大学改革の波が押し寄せようとしています。山口大学医学部では、ちょうど新病棟や新しい講義室の入った医修館などが出来た時期であり、若い人を中心に大きな夢を持つて前に進んでいただきたいと思います。最後にありますが、山口大学医学部及び附属病院のますますの発展と皆様のご活躍を祈念し、退任のご挨拶とさせていただきます。



山口大学大学院医学系研究科
保健学専攻 病態検査学講座 教授

常岡英弘

この度、平成31年3月をもちまして、山口大学医学部保健学科を定年退職することになりました。私は、昭和50年に山口大学医学部附属臨床検査技師学校を卒業後、同大学附属病院検査部で、臨床検査技師として就職し、昭和56年に長門総合病院に検査技師長として赴任しました。その後26年間管理者として、また一検査技師としてひたすら『臨床から信頼される検査科・臨床検査技師』を目指し努力し邁進してきました。

この間、日常検査で遭遇した多くの感染症の検査法について、一線病院で可能な範囲で研究・検討もしてきました。中でも、故山口大学副学長塚原正人先生との出会いがきっかけで始まった猫ひつかき病の原因菌であるバルトネラ菌に関する研究では、多くの成果を上げることができました。先生のご指導のおかげもあり、新たな診断法を確立すると同時に、その感染実態

の現状を初めて明らかにできました。空前のペットブーム到来の我が国において、本症が、決してまれな感染症ではないことへの警鐘となる研究となりました。

本業績は、私に医学博士の受験資格を与え、さらには大きな転機をもたらしました。その後、塚原先生の「大学で後輩の教育指導に当たるとは、後輩の大きな励みになる」という言葉に押され、平成15年4月に保健学科検査技術科学専攻の教授として着任し、臨床現場で得た貴重な経験をもとに、『明日の新たな臨床検査を担う後輩の育成』に全身全霊を注ぐことを決心しました。

教科書にはない臨床経験を初めて知り得る多くの重要事項、臨床検査の医療現場における重要性をいかに伝えるか：：慣れない教育現場では、苦悩の日々も続きました。しかし若い学生の成長を見守り、彼らから新たな刺激を得る日々は、技師時代には味わえなかった教育職の持つ素晴らしさと魅力を感じる充実した日々でした。

学生たちには深い教養と知性を身に着けた徳のある医療人として、また明日の臨床検査分野のリーダー的存在として大きく羽ばたいてほしいものです。

最後に在職中に多くの皆様より賜りましたご厚情とご支援に、心よりお礼を申し上げます。本学の益々のご発展を祈念いたします。

毎年3月26日は「パープルデー」

ワールドワイドなてんかん啓発キャンペーン



紫色のものを身につけて応援しよう

「てんかん」を「ご存じですか？」

正しい知識を身につけて、みんなでサポート！

てんかん、という言葉をはほとんどの方が聞かれたことがあることと思います。では実際にどのような病気か、ご存知でしょうか。

てんかんとは、脳の細胞が通常とは異なる働きをすることで起こる脳の病気です。てんかんをお持ちの方は100人に1人と言われてお

り、決して珍しい病気ではありません。また、一言でてんかんと言っても、その症状は、一瞬動きが止まるものから、全身を激しくけいれんさせるものまで様々です。

治療には基本的に薬を使い、7割以上の方が発作のない状態になると言われています。しかし3割の方が、なかなか発作が止まらず、病気に向き合っておられます。

てんかんに関するイメージは、例えば最近話題になることが多い交通事故などから、ネガティブな印象を持たれることが多く、その偏見で多くのてんかんの患者さんたちが苦しんでおられますし、必要な正しいサポートが得られずつらい思いをされている方が少なくありません。

パープルデーは、このような思いをされているてんかんをお持ちの方が少なくなるよう、世界各国で様々なイベントを行う、てんかん啓発キャンペーンの日です。

「てんかんをもつ人を、ひとりぼっちにしない」

3月26日、紫色を身につけること



公開講座ではわかりやすく説明します

で、応援メッセージを伝えることができます。

山口大学てんかんセンターでは、このパープルデーにあわせて、みなさんに正しいてんかんの知識を身につけていただけるよう、てんかん市民公開講座を2年前から開催してまいりました。今年は宇部、下関の2か所で開催いたします。また、3月26日には両市数か所で紫色のライトアップを行います。

この機会に、みなさまにてんかんについて興味を持ち、正しい知識を身につけていただけますと幸いです。

脳神経外科

井本浩哉

市民公開講座 なるほど!『てんかん』

事前申し込み不要/参加費無料

日時 平成31年 3月24日(日) 14:00~16:00

日時 平成31年 3月31日(日) 13:00~15:00

場所 海峽メッセ下関 8F 805号室
下関市豊前田町3丁目3-1(駐車場無料)

場所 宇部市文化会館 2F 研修ホール
宇部市朝日町8-1(駐車場無料)

3月26日 パープルにライトアップ

【宇部市】石炭記念館 【下関市】海峽ゆめタワー・下関市消防局中央消防署合同庁舎・はい!からっと横丁大観覧車

●主催/山口大学てんかんセンター ●後援/山口大学医学部附属病院・山口県・宇部市・下関市・山口県教育委員会
てんかん協会山口県支部・宇部薬剤師会・下関観光コンベンション協会・全国てんかんセンター協議会

お問合せ 山口大学てんかんセンター

E-mail tenkan.yamaguchi@gmail.com FAX 0836-22-2294(担当:脳神経外科 井本)





病院整備計画室だより



A棟(新病棟)新営工事 定礎式

3月5日(火)、岡学長、杉野病院長をはじめとする大学関係者や施工関係者ら約40名が参列し、A棟(新病棟)の定礎式が執り行われました。

定礎式とは、建物の安泰を祈り、年月日などを刻んだ定礎石を設置する建築儀式です。式では、玉串奉奠(ほうてん)等の神事とともに、「定礎銘板鎮定(ちんてい)の儀」や「齋鍔(いみごて)の儀」など、一連の定礎行事が行われました。

神事の後、岡学長から関係者への謝辞と、開院した暁には、山口県唯一の特定機能病院として、県内の医療提供体制の充実、先進医療のさらなる発展に貢献していきたい旨が述べられました。

A棟は3月竣工、6月24日(月)開院予定です。5月18日(土)には一般住民の方々向けの内覧会も実施予定ですので、是非お越しください。



挨拶をする岡学長



「齋鍔の儀」を行う杉野病院長



定礎石の奥に埋め込まれる定礎箱には、A棟図面や関連パンフレットに加えて、流通硬貨一式や当日の新聞が納められました。



8階屋外庭園(上)と小児科病棟のホスピタルアート(下)

式終了後、岡学長、杉野病院長とともに、A棟8階小児科病棟及び1階オーデトリアムの施設見学を行いました。

小児科病棟には、子ども達に入院生活を心豊かに過ごしてもらうことを願って、クリエイティブユニット「キギ」渡邊さん制作の可愛いホスピタルアートが多く設置されています。また、オーデトリウムは、通常時は大講

義室として各種セミナーや市民講座等に、災害時には座席を収納して臨時治療スペースとして使用可能です。

新病棟の詳細はこちらへ

山口大学 再開発

再開発整備事業URL
<http://h-seibi.hosp.yamaguchi-u.ac.jp>



A棟 内覧会(一般住民の方々対象)のご案内

日 時 2019年 5月18日(土) 14:00~17:00 ※14:00受付開始・16:30受付終了

受付場所 A棟ホスピタルギャラリー(右図のとおり)

※お車で来院される方は、外来駐車場をご利用の上、駐車券を受付までお持ちください。

見学箇所 手術部・集中治療部・小児科病棟(ホスピタルアート・病室)・オーデトリウム(大講義室)

※順路に従って見学していただきます。

その他 当日受付(事前申込不要)

お問合せ 山口大学医学部経営企画課 病院整備計画係 TEL0836-22-2019・2085



臨床教育センターのホームページが出来ました。

このたび、臨床教育センターのホームページが出来ました。同センターは、大学病院では経験する機会の少ないプライマリ・ケアや1・2次救急症例をより幅広く、より豊富に研修できるように、平成30年1月に宇部興産中央病院内に山口大学医学部附属病院のサテライト教育施設として開設しました。

ホームページでは、研修プログラムや研修医の一日などをくわしく紹介しています。ぜひご覧ください。

臨床教育センターホームページ

<http://cec.hosp.yamaguchi-u.ac.jp/>



ぜひ
ご覧ください!



研修プログラム



研修医の一日



医学教育
センター
だより vol.1

サージカルウインターセミナー2019を開催しました



1月26日(土) 霜仁会館において、外科に興味のある医学科4・5・6年生および研修医を対象に「サージカルウインターセミナー2019」を開催しました。

セミナーは4・5年生対象のベーシックコースと6年生・研修医対象のアドバンスコースが行われ、25人が参加しました。

ベーシックコースは、昨年6月に行われたサマーセミナーでの縫合実習、電気メス実習、腹腔鏡実習に加えて、血管外科の低



侵襲治療である血管内治療のトレーニングキットを用いた実習が行われ、参加者全員がステント治療を体験しました。

アドバンスコースは、心血管コース、呼吸器消化器コースに分かれて行われました。呼吸器消化器コースでは、豚を用いて右肺上葉切除および腸管の吻合を行いました。参加者はみな真剣に集中して実習に取り組んでいました。この体験を、ぜひ臨床実習や臨床研修に活かしてほしいと思います。

栄養治療部
季節のレシピ
Seasonal Recipe



Today's
menu

簡単炊き込みご飯

前回と同じく手軽で便利な缶詰を使用した簡単炊き込みご飯を紹介します。
春先は、生活環境が変化し、体調を崩しやすい時期です。
体調を整えるためにも、食事や睡眠はきちんととりましょう。



栄養成分 エネルギー 252kcal 食塩相当量 0.6g

牛肉の効用

牛肉にはたんぱく質が多く含まれますが、鉄分や亜鉛などのミネラルも豊富です。牛肉のたんぱく質は必須アミノ酸の「リジン」を多く含んでおり良質なたんぱく源となります。筋肉や皮膚といった体を形成する成分であるとともにホルモンや免疫物質の生成にも関わっています。牛肉にはヘム鉄という消化吸収のよい鉄分が含まれますが、緑黄色野菜やビタミンCと一緒にとることでさらに吸収率アップ。新陳代謝や味覚に関係する亜鉛も含まれています。牛肉は身体を温める働きが強く、冷え性に効果的です。胃腸の冷えからくる消化不良や食欲不振などの改善にも役立ちます。

参考文献：食の医学館

©監修：有富早苗・福田有子

材料 1人分(カッコ内は一分)

- | | |
|----------------------------------|-------------------|
| ●米…………… 60g(150g) | ●ごぼう…………… 4g(10g) |
| ●水…………… 75cc(180cc) | ●人参…………… 4g(10g) |
| ●牛肉大和煮缶(内容量70g)
…………… 30g(1缶) | ●冷凍グリーンピース 2g(5g) |
| ●醤油…………… 1g(小さじ1/2) | ●生姜…………… 1g(2.5g) |

作り方

- 1 米、野菜の下処理をする。
米をとき、ごぼうは洗って泥や皮をこすり落とし、ささがきにして水にさらす。人参は短冊切り、生姜はせん切りにしておく。
- 2 炊飯釜に米、水、大和煮缶、ごぼう、人参、グリーンピース、醤油を入れ、軽く混ぜてから炊飯する。
- 3 ご飯を茶碗に盛付け、せん切りにしておいた生姜をのせる。

- 生姜は混ぜ込んでもおいしいです。
- 混ぜ込みご飯にもできます。その場合は、缶詰、野菜と一緒に鍋で煮て、炊き立てご飯に合わせ、生姜を添えます。



Topics トピックス

山大医学部・病院の旬な話題を発信!

医学部医学科で白衣着衣式を举行了ました

1月25日(金)、医学部医学科白衣着衣式を举行了ました。この式典は毎年、本学医学部医学科同窓会である霜仁会(そうじんかい)から、これから始まる臨床実習を前に医学生としての決意と自覚を確認するために白衣が贈られているもので、福本霜仁会会長、谷澤医学部長、杉野医学部附属病院長をはじめ関係者が列席しました。

はじめに、谷澤医学部長から訓辞とStudent Doctor(医学実習生)認定証(全国医学部長病院長会議認定)が学生に授与されました。続いて、福本霜仁会会長から祝辞があり、4年生117名へ白衣

が授与され、一斉に白衣を身に着けました。

その後、学生代表の長江麻由さんから「医療人となることを志す者としての自覚を高め、頂いた白衣の責任と使命を胸に、日々精進していくことを誓います」と宣誓がありました。最後に杉野医学部附属病院長から期待を込めた挨拶があり、学生全員が医学生としての決意と自覚を新たに白衣着衣式を終りました。

今年度より保護者見学会と同日開催となり、多くの保護者が参観されました。



山口大学病院、
Facebook始めました。



皆さんからのご意見・ご感想をお待ちしております。

今後読んでみたいテーマ、興味のある記事などお気軽にお寄せください。

FAX 0836-22-2113 E-mail me202@yamaguchi-u.ac.jp

企画発行 山口大学医学部広報委員会・山口大学医学部総務課総務係
〒755-8505 山口県宇部市南小串一丁目1番1号 TEL 0836-22-2007
医学部 <http://www.med.yamaguchi-u.ac.jp/>
附属病院 <http://www.hosp.yamaguchi-u.ac.jp/>